最高の収穫は、
仲間たちの心のふれあい。

合併前地域の女性たちの交流の場が誕生したのは昭和末期、一九八六年のことだった。農産物の東郷加工所。そこには、ただ漠然と親しくなるという交流とは違って、「農」という手ごたえ確かな芯があった。大地の実りを中心にして心を通わせる女性たちの拠点である。

誕生当時はしかし、順風とはいえなかった。女性だけで、女性のためにひとつの組織を築いていくことの難しさ。「先輩たちが努力を重ね、少しずつ実績を築いてくださったことが基礎となって現在の活動があります」。三代目運営委員長の佐々木素子さん（写真後列中央）は敬意をこめて語る。加工所第一号作品は、この地の特産である梨の果汁から作った飴だ。「古くから咳どめによく効くシロップとして馴染んでいました」。この第一号、現在も定番である。

学校給食に活用され、そのおいしさが評判となり、直販所に置かれるようになった米味噌。トマトづくりから加工までを手がけるトマトケチャップ。同じく芋の栽培から始めるコンニャク。などなど、作品の幅は広い。いうまでもなく素材はすべて、ゆりはま産。正真正銘の地産地消である。たくさんの名作を生み出すこの加工所、「設立の趣旨どおり、この拠点での活動を通じて生まれる有意義な仲間のふれあいこそが……」最高の収穫なのだ。今日も集まって元気よくモノづくりに励みながら、新たな加工品のアイデアを出しあう。平均年齢は決して低くはないが、場の空気はきわめて若い。

ゆりはまふれあい施設農産加工グループ
佐々木素子

ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま